

〔茶道筌蹄^四〕蓋置之部

火屋^{ホヤ} ホヤ香爐をかり用ゆ

青磁一閑人 元來香爐なり、仙叟箱書付には青磁香爐一閑人とあり、何れの時よりかフタ置となる。

同無閑人 人形のなきをいふ

同三人形 唐子三人、手を組合せたる形也、

同夜學 足四ツと五ツとあり

赤繪の獅子 一閑人のごとく、人形の所が獅子になる也、

染付三方 竹の節

祥瑞 形定まらず

交趾 同

和物金類

火屋 一閑人

榮螺 大は眞鍮、千家にては用ひず、小は唐金、利休所持、

三人形 利休所持、原叟書付あり、和物なり、冬木氏傳來、喜平次當時は浪花殿村平右衛門所持なり、

五徳 開山五徳といふは、紹鷗所持、臺子は切懸釜ゆへ、いにしへは多く五徳を用ゆ、作は奈

印 東山殿義政臨濟禪師の銅印を假用ひられしが始なり、

蟹 筆架假用ひしが始なり

輪 唐物うつしなり